

令和元年度第3回長久手市地域包括支援センター及び地域密着型サービス等
運営協議会 意見照会票応答（令和2年5月 意見照会分）

(1) サービス事業所の廃止について

意見 廃止され、絶対数が減少すると2025年を控え、今後の介護サービスに不安を感じる。

回答 介護サービス事業所が廃止されれば、不安を感じます。3年ごとに作成される介護保険事業計画で介護利用者の想定を踏まえ、介護サービス事業所の必要数も考えていきたい。

(2) センターの運営方針について

意見 基本方針の3・4

支援者・プレイヤーの充実（人数・資源数・レベルアップ）も期待したい。

回答 支援を必要とする高齢者が増加し続ける中、支援者やプレイヤーの充実は喫緊の課題です。地域包括支援センターが個々の相談に対応する中で、チームとして支援者やプレイヤーを巻き込んで、増やしていけるような動きを意識していく必要があると考えております。

(3) 総合事業の推進について

意見 「高齢者」対策ではあるが、女性より男性の参加率が低く、男・女を区分することは難しいが、男性対策が必要ではないか。

回答 現時点では、男性のための体操教室「スポーツボイス」や麻雀サロン等、男性が集いやすい場づくりを進めています。男性は活動に何らかの目的や役割を求める方が多いと認識しており、地域づくりの中で適切なマッチングができるような仕組みづくりに努めていきます。

(4) 新型コロナウイルスに関すること

意見 新型コロナウイルス感染症のため、全国的に地域での見守り体制が戸別訪問できなくなり、薄くなっていると言われている。代替手段をいかに確保するかが課題。終息まで長期化が予想されるため、独居や高齢者世帯への支援方法を考える時期かと思う。
（タブレット端末を活用した安否確認とか、ネットスーパー利用支援、Nタクの予約など）今後も増々地域包括支援センターの役割が大きくなってくる。職員の心身の負担が過重にならないよう、人員配置を考慮していただければと思う。

回答 感染症対策により、直接お会いしての健康観察や見守りができにくくなっており、市の介護予防教室参加者を中心に「健康チェックシート」をお送りしたり、電話での状

況把握を行ったりしてきました。今後もICTの活用を含め、様々な代替手段の導入を推進していきます。

地域包括支援センターの役割はますます重要性を増しており、業務の状況や人員の適正な配置など常に注視していきます。